

活動状況

八雲町漁業協同組合環境・生態系保全活動組織 熊石地区藻場保全活動組織

近年、日本海及び道南地区では、コンブ類が減少傾向であり、反面、モク類の生育が目立ってきています。このような環境の変化に上手にお付き合いしながら、八雲と熊石の両地区では、モク類の種苗投入による積極的な藻場の保全に取り組んでいます。それぞれの海域の特性に合わせ、八雲地区では「ウガノモク」、熊石地区では「フシスジモク」の種苗を特殊な台座に取り付け、ブロックや海底の岩盤等に設置しています。このような水産多面的機能発揮対策事業にモク類を導入した八雲町の取組みは、北海道唯一の事例となっています。



【種苗の設置時】



【設置3ヶ月後】



【設置8ヶ月後】



【二次発生の確認】



【熊石地区では、植樹活動を取り入れ、
山～川～海の栄養循環の促進を図っています】



【マゾイが蛸集】



【産み付けられた魚類の卵塊】

設置した種苗の多くは、順調に生長しており、しかも周辺漁場には、生長したモク類から散布された種からの二次発生も確認されており、藻場の形成、拡大が期待されています。生長したモク類には、魚類の蛸集や産卵が見られており、藻場の「海のゆりかご」としての機能発揮につながっています。